

「大阪・関西万博」機運醸成事業

(2023年10月4日～5日)



「ORA外食パビリオン」イメージ図
(提供：(一社)大阪外食産業協会)

70年万博のレガシーを引き継ぐ当協会は、2025年に開催される国際博覧会（大阪・関西万博）において（一社）大阪外食産業協会（ORA）が出展する「ORA外食パビリオン」の運営主体、食博覧会実行委員会に参画します。

日本の食文化の海外発信および同パビリオンへの誘客のため、関西の文化体験イベントを催し大阪・関西万博の機運醸成を図りました。

2023年5月に新型コロナウイルスが感染症法上の5類に移行し、水際対策が終了しました。コロナ禍後のインバウンド（訪日外国人）回復と大阪・関西万博への期待感を高めるべく、日本文化に対する感度が高く旅行消費額の多いEU加盟国の駐日大使や領事などを対象とした体験型モニターツアーを実施しました。14名の参加者には交流を通じて関西・大阪の文化の魅力に対する理解を深め本国で情報発信していただき、EU諸国富裕層の呼び込みにつながることを期待しています。

本事業は、観光庁の補助金「インバウンドの地方誘客や消費拡大に向けた観光コンテンツ造成支援事業」を活用して実施しました。



調理服に着替え、お好み焼きのコテ返しにチャレンジした参加者

● 伝統芸能と食文化体験 10月4日

初日は、大阪で最も由緒のある大槻能楽堂（登録有形文化財）において、人間国宝である大槻文藏氏の舞による能楽（ユネスコ無形文化遺産）の鑑賞と、演者の解説による能楽体験ワークショップにより日本の伝統芸能を体感していただきました。



大槻能楽堂での能楽体験。小鼓（こつづみ）を打つ参加者

続いてシェラトン都ホテル大阪内のぷれじでんと千房において、大阪のだし文化・粉もん文化の代表であるお好み焼きの本格的なコース料理を賞味し、江戸時代から食い倒れと呼ばれる大阪食文化に触れていただきました。



お好み焼きの食文化体験

● 万博オリエンテーションと会場俯瞰 10月5日

翌日はグランドプリンスホテル大阪ベイの会議室にて（公社）2025年日本国際博覧会協会機運醸成局長の堺井啓公氏をお招きし、万博の開催概要と最新動向を、続いて食博覧会実行委員会事務局次長の成瀬研治氏よりORA外食パビリオンの出展概要をそれぞれ説明し、万博の魅力に対する理解を深めていただきました。



万博オリエンテーションの様子。講師は堺井機運醸成局長

その後、同ホテル屋上のヘリポートから、大阪湾に浮かぶ人工島・夢洲を見下ろし、万博会場とそのシンボルとなる大屋根（リング）の建設状況などを見学しました。参加者からは万博に関する質問に加え統合型リゾート（IR）の質問も相次ぎ、両施設に対する関心の高さがうかがわれました。



ヘリポートから万博会場を俯瞰